

式 辞

早春の朝日を受ける石鎚の稜線は柔らかく輝き、芽吹きの子節を迎えた道前平野が力強さを増す今日の佳き日、御来賓の皆様の御臨席を賜り、愛媛県立東予高等学校第六十一回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、大きな喜びであります。御臨席賜りました全ての皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。皆様が大切に慈しみ、ここまで立派にお育てになったお子様が、高等学校卒業という節目の日を迎えられたことに、心からのお祝いを申し上げます。

卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

三年間の高校生活は、様々な思い出に満ちていることと思います。友との語り、師と仰ぐ教職員との絆、目標に向かって励んだ日々、喜びに心弾んだ日、人知れず涙した日。すべてが、皆さんの心と身体をつくってきた、かけがえのない経験です。この東予高校で培ってきた、思いやりの心とたくましく生きる力で、実社会を明るく力強く生き抜いてください。

卒業生の皆さんは、感染症対策の続くさなかに本校に入学しました。先の見えない中で始まった高校生活において身に付けた、状況を冷静に見極める力、不安や不満を考えることで整理し消化する力、人を思いやる気持ち、支えてくれる人への感謝、困難を仲間とともに乗り越えようとする姿勢は、皆さんの今後の人生に大いに役立つスキルとなるはずです。

感染症対策の緩和が始まった高校二年生の一学期の始業式で、私はある大学の先生の研究を紹介しました。日本人を含む東アジア人の表情は目元に出やすく、日本人の赤ちゃんは生後七か月の段階で相手の目元に注目するが、上に二点の目、下に一点の口があることで顔というものを認識し、その上で目元に注目をする。やはり満面の笑顔で向かい合うことには意味があるから、これ

からはその笑顔とともに、挑戦できること、活躍できる場が通常に戻っていくことを期待しているという話でした。今日、コロナ禍を乗り越えて卒業の日を迎えた皆さんの満面の笑顔を、心に焼き付けたいと思っています。

二月の創立記念行事の折に、埼玉県八潮市の道路陥没事故のことに触れて、デジタル化やAIが注目されがちな社会であっても、事故・災害時の救助や復興に当たって待たれているのは人の力、とりわけ技術者の力であるという話をしました。人の暮らしを豊かにすること、便利にすること、安全を守ること、そういった人の幸せに貢献する技術者の力は、未来がどんなに複雑な仕組みの下に展開したとしても、変わることはない大切な力であると考えます。皆さんは三年間、「ものづくりの持つ力」を学ぶことができました。皆さんが身に付けた「人の幸せに貢献する力」を、これから皆さんが就くどの仕事においても存分に発揮してください。

皆さんが卒業した後、本校は令和八年度から年次進行で新しい学校に統合されていきますが、本校で受け継がれてきた工業教育は、この校地で後輩たちに引き継がれていきます。新しい学校は、本校の教育活動はもちろん、本校の歴史や卒業生の思いも引き継ぐものです。ぜひ、卒業後も前身の高校の卒業生として、新しい学校に対する親しみと応援する気持ちを持ち続けてください。

「ああ 新しき地平線 われらが前に 展けたり」

これは校歌三番の一節です。今、皆さんの目の前には、新しい未来が、果てしない地平線のようにどこまでも広がっている、と謳っています。

どうか、身体を大事に、命を大切に、人に優しく。皆さんの今後の御活躍と幸福を切に願って、門出を祝う式辞といたします。

令和七年三月一日

愛媛県立東予高等学校長 渡邊 琴子